入選　（高学年の部）

お母さんありがとう

神奈川県　湘南白百合学園小学校 六年

千原（ちはら）　慧子（さとこ）

リュックで登校するのは、この間の遠足以来である。今日のリュックの用途は思いもよらぬ使い方だ。なんと、リュックはお腹の赤ちゃんになるのだ。五年生恒例の一日妊婦体験だ。私は、お姉さん達の姿を見て、とてもやりたいと思っていた。

一時間目、先生から妊婦体験の説明があった。妊婦体験といっても難しいことではなくリュックに二リットルの水を入れ、その中に生卵を一個入れて大切に過ごすだけだ。私は双子なので、クラスのみんなに「二倍二倍」とはやしたてられたが、とりあえず一人分で行うことにした。原則は一日どんな時もリュックを前にだいて過ごすということだ。しかし、トイレ、昼休みなど都合の悪い時は少しだけリュックをおろしても良いのだ。

ただし、都合の悪い時といっても授業やテストの時におろしてはいけないと注意された。当然のようにクラスのみんなから不服のごとく声があがったが、私は思った。本当の妊婦は一日どころか半年以上もお腹に赤ちゃんを入れて普通に生活しているのだから、私はなるべくリュックをおろさないようにして一日生活してみた。

五年生の教室は学校の中でも最上階の三階にある。いつもは意識することもなくすいすいとあがっている。しかし今は、一段あがるたびに息が切れてしまう。下りの階段はさらに恐怖だ。友達とおしゃべりなんてしていられない。なんせ足元がまったく見えないのだ。もしも転んだらお腹の生卵が割れてしまうことを考えるとなおさら慎重になる。さらに、思った以上に大変だったのが授業である。

（なぜ授業？）と思うかもしれないが、ノートに書いてある字はリュックがじゃまで読みにくい、字を書くにしてもリュックに入っている水が破水してしまいそうでおっかなびっくりになってしまう。いつもは普通に出来ることが出来ない。つまり、病気ではないのに普通ではないのだ。

私の母の友達も、そしておばあちゃんも皆普通にお母さんをやっている。でも、初めて思った。お母さん達が私達のことをどんなに大切にして産んで、育ててくれたかということに気づかされた。夏休みの始まりの頃、私達の誕生日がやってくる。今年の誕生日は、母に私達双子を元気に産んでくれたことに心から感謝して「お母さんありがとう」の言葉をおくりたい。